Faculty of Informatics, Shizuoka University Newsletter, vol.8, April, 2012

Joy風 vol.8

April 2012
静岡大学情報学部
http://www.inf.shizuoka.ac.jp

2011年度秋季 保護者懇談会を開催しました

2011年度学生委員長　石川博

2011年度秋季情報学部保護者懇談会が11月12日（土）、静岡大学浜松キャンパスの情報学部講義棟および2号館内にて執り行われ、200名を優に超える参加者がありました。全体懇談会では学部紹介（総務委員会）、学習事項の説明（教務委員会）、学生生活の説明（学生委員会）、就職動向の説明（キャリア支援室）を各10分程度行い、最後に質疑応答時間を設けました。保護者のみなさまの中には熱心にメモを取られる方も多く、また示唆に富んだご質問もしていただき、開催者側にとっても有意義な時間を過ごすことが出来ました。

▲保護者懇談会・全体懇談会で挨拶する荒川学部長（2011/11/12）

続いて個別懇談会は希望する保護者のみなさまが指導教員（原則）と面談を行う機会として、各教員が大教室または教員のオフィスなどを使って対応させて頂きました。当日の面談では、学業（成績）、進路（就職）、日常生活、ゼミなどについて多くの質問が寄せられ、我が子を想う親御様の気持ちをひしひしと感じることが出来ました。

懇談会終了時にアンケートにご記入頂きましたが（回答数113）、遠くは九州や北海道から来られた方々も散見され、本イベントに対する関心の強さを再確認した次第です。保護者の全体懇談会への評価は、全体の56・2％の保護者が「有意義」と答えている一方で、「普通」が42・9％、「期待はずれ」が0・9％との結果でした。個別懇談会に対する評価は、91・1％の保護者が「有意義」と答えており、高い数値を示しました。

アンケートの自由記述欄では「学生一人一人を細かく見て頂いていると感じました」「親にとってはとてもありがたい企画だと思います」「教授の人間性に触れて楽しかったです」などの好意的なご意見をいただいた一方で、「（個別面談が）15分は短いかも？」「OBの方の体験談等もあれば聞いてみたい」などのご要望・ご意見も頂きました。こうしたご意見は今後の懇談会運営の参考にさせて頂きたいと思っております。

ウェルカムバック！ 第2回ホームカミングデー

11月12日（土）、昨年に引き続き、情報学部の同窓生を迎えて第2回目の「ホームカミングデー」が開かれました。当日は17時より全体集会が行われ、第2代目学部長を務められた徳山博于先生（現在は独立行政法人科学技術振興機構JSTイノベーションサテライト静岡館長）の熱のこもった講演に、一同耳を傾けました。続いて、18時より生協食堂で懇親会が行われ、卒業生・教職員など約70名が参加しました。卒業生ならぬ「卒業教員」の萩川友宏さん（現・筑波大学）より記念品贈呈というハプニングもあって、会場が大いにわきました。これからも、同窓生・教職員、力を合わせて、多分野で多彩な教育研究を特徴とする情報学部のモットー「文工融合」の精神とともに、さらに学部を発展させていきたいと改めて思った1日でした。（広報委員会）

▲懇親会場にて、荒川学部長（左）・阿部初代学部長（中央）・萩川先生（右）

▲萩川先生より記念品贈呈

◀記念品は、文具と工具が収納できる「文工融合」道具箱！

▲懇親会で乾杯の音頭をとる第３代目学部長・南先生

▲徳山先生の講演会

■同窓会のFacebook作っちゃいました！

同窓会幹事　原野敦之
（第2期生・情報科学科卒・ヤマハ株式会社半導体事業部　商品開発部デバイス開発第2グループ勤務）

ホームカミングデーは、なぜ開催されるようになったのだろうか？というのが企画を始めたころの率直な感想でした。情報学部の卒業生が自発的に運営する同窓会組織が生まれることを最終目的とし、まずは教員の方がバックアップして同窓会を開き、それが種となり同窓会組織へ成長して行くことを期待して開催されるようになった、と今では理解しています。企画で一番苦労したことは参加者集めでした。浜松工業会が保有している現住所情報には、個人情報の観点でアクセスできず、そうなると全国に散らばる卒業生に開催を伝えるには、在籍している先生方の個人的な〝つて〟だけが頼りでした。

そこで今年度以降の参加者集めの決め手として、情報学部らしく、ソーシャルメディアを活用して、卒業生の繋がりを強めていきたいと考えました。そして試験的に、Facebookページをこっそり開設していました。単年では効果はありませんでしたが、続けることが重要だと思っています。卒業生だけでなく、在学生や先生方にも参加してもらい、これから自由に交流していって頂きたいと思っています。管理は、ホームカミングデーの幹事（卒業後10年）を中心に、毎年引き継げると良いと思っています。

浜松工業会のような伝統的な組織である必要もなく、ネット上だけ

に存在する組織でもいいかもしれません。

Facebookページ　"静岡大学 情報学部 同窓会(仮)"
http://on.fb.me/x8X5G2

▲懇親会にて、第２期生の皆さん

第16回 テクノフェスタ in 浜松

11月12日（土）・13日（日）の週末２日間にかけて、恒例のテクノフェスタが静岡大学浜松キャンパスで開催されました。テクノフェスタは、一般市民の皆さんに大学キャンパスに自由に入っていただき、実験に参加したり、展示を見学したりすることで、工学や情報の最先端の技術・研究に楽しく触れてもらうイベントです。12年前から大学祭と併せて開催されるようになり、静大生による模擬店やライブパフォーマンス、フリーマーケットなどもあって、キャンパスは子どもからおとなまで来場者で大賑わいでした。情報学部からは先端研究公開展示、おもしろ実験、そして研究室公開展示に、あわせて18の研究室および研究グループが参加しました。また12日には、伊東学長が情報学部棟でオフィスアワーを実施、静大生だけでなく、保護者の皆様や地元の高校生なども参加してくださいました。

▶静大キャラクター「しずっぴー」は子どもたちに大人気（2011/11/12）

▲オフィスアワーで語る伊東学長（2011/11/12）

■先端研究公開：テクノフェスタで「浜松地域の学際的研究」の展示を行いました

情報学部情報社会学科教授　笹原恵

現在、情報学部では情報学研究推進室の助成を得て３つの研究プロジェクトが進められていますが、浜松地域の学際的研究もその一つです。社会学、地理学、人類学、歴史学、法学、統計学などさまざまな領域を専門とするメンバーが結集し、広域化した浜松地域における地域産業構造やグローバリゼーションの影響について分析を試みています。今回のテクノフェスタでは、浜松市の広域化（12市町村の合併）や自治会の歴史、浜松まつり、浜松における外国人支援ＮＰＯ、またリーマンショックが浜松にもたらした影響や東日本大震災の影響などについての展示を行い、２日間で３００人近くの方に見ていただきました。リーマンショックの影響や浜松まつりに関心を持ってくださる方が多かったようです。今後は浜松地域におけるイノベーションの可能性についての何らかの政策提言を行いたいと考えています。来年度も研究成果をご覧いただく予定ですので、ぜひ足をお運び下さい。

▲展示会場

▲展示したパネル

■研究室公開展示：リズム・オエカキ・オマケツキ

杉山岳弘研究室　平野翼

当杉山岳弘研究室は、毎年その年に流行したものを取り入れ、ありあわせの機材と技術で最新の情報技術をわかりやすくお伝えすることを目的に展示を行っています。本年は音楽のリズムに合わせて体を動かす体感型リズムゲームの展示を行いました。

このリズムゲームではコントローラや、センサーを体に身につける必要はありません。２人で画面の前に立ち、指示に従って手を順にカメラにかざし、その後リズムゲームを、全身を使って行います。音声の指示に合わせて３種類のポーズを取るゲームと、画面内に落下してくるものをパンチで壊す２種類のゲームを用意しました。ゲームをクリアすると２人の相性診断が得られます。最初にかざした手の形を認識し、ゲームのスコアと合わせて２人の相性を判定しています。

なにも持たず、なにも付けずに遊び始めたのに画面の中には自分のシルエットが現れ、自分の動きによりゲームが進行していく。最新の情報技術の応用による不思議な体験は、多くの来場者の方に楽しんでいただき、技術を身近に感じていただくことができました。

▲リズムゲームで相性診断（2011/11/12）

シドニー大学 短期コースの報告

情報科学科　ツアガーン　バイガルマ

12月17日から1月5日にかけて、シドニー大学短期留学集中コースの引率に行ってまいりました。このプログラムは、年末年初の冬休みを利用してオーストラリアの文化と言語を学ぶもので、静岡大学・岐阜大学が毎年共同で実施しています。本年度は、静大生９名（男性４名、女性５名）、岐阜大生７名（男性１名、女性６名）が参加しました。

プログラムでは、シドニー大学の留学施設に滞在し、現地の先生が企画・運営する学習日程を消化します。午前中は、教室でオーストラリアの歴史や多文化を中心に講義を受け、午後は、社会見学などの校外研修に出かけます。全ての学習活動が英語で行われるので、学生にとっては「生」の英語力をつける絶好の機会でありました。

その他に、クリスマスコンサート、新年カウントダウン花火、首都キャンベラの見学、海水浴など、夏のオーストラリアらしいレジャーも盛りだくさんで、参加学生たちにとって、毎日が新鮮で充実した20日間でした。

▲シドニーオペラハウスを望む（2011/12/20）

▲オージー・ビーチでクリスマス（2011/12/25）

■オーストラリア短期留学を通して。

情報科学科1年　柴田 高司

今回シドニー短期留学に参加し、あっという間であったけれど、ここでは書ききれない程中身の非常に濃い3週間を送ることができました。この研修で、オーストラリアならではのアクティビティや、歴史、文化に触れることができました。すべてが楽しく毎日が息つく間のないくらいに終わってしまいました。他にも、実際に自分で行かなければ得ることのできない、「英語をもっと勉強したい！」という気持ちや、「世界についてもっと知りたい！」という、強い刺激を受けることができました。また、自分の世界（テリトリー）が広がり、自分はなんて小さな存在であるか気づかされるとともに、世界がこんなに近くに存在しているのだと感じることもできました。多くの先生方が「若いうちに海外へ行くことはいいことだ。」とおっしゃっている意味が、この短期留学を通して分かった気がします。是非、みなさんもこの充実した研修に参加することをおすすめします。また、僕自身も、お金を貯めて再び海外に行きたいと計画しています。

▲授業風景（2011/12/11）

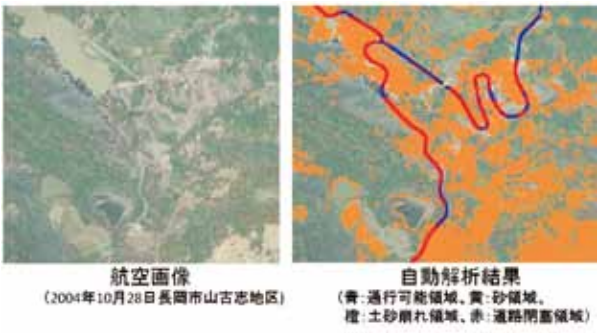
研究紹介

■防災関連の研究紹介（上空画像を用いた災害復旧支援）

情報科学科教授　佐治斉

地震災害や風水害等の大規模災害時において救助・救援活動を円滑に遂行するためには、被災地状況のみならず、消防・救急車両の通行路や被災者の避難経路を含め被災地周辺の広域状況を迅速に把握することが不可欠です。しかし、被災直後の周辺状況を、地上に設置された機器による限られた観測だけで把握することは困難であり、人手で調査することは時間がかかり危険も伴います。これを踏まえ、上空から撮影された衛星画像や航空画像群、および電子地図情報を統合利用し、道路交通状況や土砂崩れ状況をはじめとした被災地周辺の広域情報を、画像情報処理技術を用い自動的に一括解析するための研究を、複数の組織と共同で推し進めてきました。

添付した画像は、新潟中越地震直後の長岡市山古志地区の被災地の航空画像（(株)パスコ）と、この画像に画像処理手法を適用し、道路上の瓦礫領域・浸水領域を自動抽出し、地図（(財)デジタル道路地図協会）と重ねて通行可能／不可能領域を表示した結果です。このような情報を災害直後に広く公開できれば、様々な復旧支援活動に役立てることが可能となります。



■産学連携による遠鉄百貨店新館のツイッターを活用した口コミ分析

情報科学科教授　石川博

情報科学科石川研究室では、遠州鉄道株式会社および株式会社遠鉄百貨店との産学連携によりツイッターを利用した口コミ分析に関する研究プロジェクトを行っています。石川研究室では、これまでにツイッターに投稿された無数の短文（ツイート）を、データマイニング技術を用いて分析する『ツイッターマイニング』の研究を行ってきました。その技術を発展させ、昨年11月にオープンした遠鉄百貨店新館に関するツイートを分析するのがこの産学連携プロジェクトの主眼です。

現在、本年度分の成果報告に向けて、修士課程の青島傳隼君、坂本翼君が中心となり、遠州鉄道の担当者と複数回に及ぶ打ち合わせを行い、研究を進めています。このような取り組みは、大学にとっては地域との連携を図る重要な機会となります。実際、このプロジェクトは情報学部地域連携推進室の支援事業にも選定されました。さらには、担当する2人の学生にとっては、自分の研究成果を社会へと還元する良い経験となったのではないでしょうか。

本研究プロジェクトは静岡新聞（11月6日朝刊）、日本経済新聞（11月22日朝刊）、中日新聞（11月23日朝刊）、読売新聞（12月3日朝刊）、朝日新聞（12月14日朝刊）各紙で報道されました。

▲プロジェクトに参加した青島傳隼君と坂本翼君

【学生の表彰】

【学長表彰】
堀田希恵

【学部長表彰】
田中　剛　鳥山聡志　後藤康路

【学位記受領代表】
（正）後藤康路（副）山本舞美

【浜松工業会学習奨励賞】
CSプログラム　藤橋卓也　袴田大貴
ISプログラム　水野杏里　佐藤　良
IDプログラム　山本舞美　島﨑浩次

地域連携推進室の活動報告

地域連携推進室室長　淺間正通

地域連携推進室の役割は、その時代的な要請に伴って、年を追うごとに高まってきています。近隣の小中学校へのITボランティア学生の派遣、浜松市教育センター主催のIT講習会の講師補佐ボランティアの派遣、学内連携としての附属中学校のHP作り支援、公開講座の開催など2011年度後学期も、地域連携推進室を中心に学部学生および大学院生たちが積極的に地域貢献に尽力いたしました。

そして、さらなる地域連携および地域貢献の芽生えを期待し、2011年11月には、本推進室初の試みとなる学部内プロジェクト公募を執り行い、その実現の可能性、将来的なポテンシャル、学部のアイデンティティ確立への寄与等の観点からの審査を経て、合計8件のプロジェクト助成を行いました。東海地区ソフトウェア開発者との意見交換会、写真展の開催、市内国際結婚カップルの支援、Twitterを利用した「マチナカ」評判分析、小型ヒートポンプを用いた施設園芸環境向け湿度制御システムの開発など、多様な取り組みが執り行われました。プロジェクト責任者である教員主導のもと、多くの学生を取り込んだこれらのプロジェクトが契機となって、さらに地域連携推進室の活動エネルギーとなっていくことを期待して止みません。

▲浜松市教育センター主催エクセル初等講座にてIT講師補佐ボランティアとして従事する学生たち（2011/7/30）

情報学部の進学・就職状況とキャリア支援室の活動報告

情報学部キャリア支援室長　中谷広正

大学院に行こう！大学院情報学研究科の入学定員を今年から2割引き上げ50名から60名に増員することが文部科学省に認められました。定員増により、適正な定員のもと学部生の進学欲求と社会からの人材要求とを満たすことができます。

情報学部および大学院情報学研究科は、教育研究の質の維持・向上に努めています。情報学部での4年と大学院情報学研究科修士課程での2年間とを合わせ6年間の一貫した教育計画のもと質の高い人材を世に送り出しています。大学院生の就職活動についても情報学部キャリア支援室が支援に努めます。

大学院に進学する皆さんが就職する2年後までには経済状況・就職市場が好転するのを願っています。しかし、就職で好成績を収めてきました情報学部にとっても、この数年の状況は厳しいものでした。昨年は、震災・原発事故で大手企業の選考が数ヶ月延びたこともあり、就職内定率は8月に入っても65％と低迷しました。この状況に、各学科就職担当教授を中心に個別指導や相談など手厚い支援体制を敷きました。

現時点での内定率は学部と大学院とを合計して88％です。詳しくは表をご覧ください。キャリア支援室は、更に一人でも多くの学生に就職を決めて貰おうと支援を続けています。同時に、就職指導・就職講演会・企業説明会など、来年の卒業生・修了生への支援にも汗を流しています。今後とも保護者の皆様のご理解ご支援をお願いいたします。

▲合同企業説明会（2011/12/17）

平成23年度進路状況（平成24年2月10日現在）

進路状況 2012.02.10	情報学部			大学院情報学研究科			学部＋大学院
	情報科学科 85名	情報社会学科 103名	188名	情報科学科 48名	情報社会系 22名	70名	258名
進学希望	42	8	50	1	1	2	52
進学決定	42 100%	7 88%	49 98%	1 100%	1 100%	2 100%	51 98%
就職希望	39	90	129	44	18	62	191
就職内定	34 87%	82 91%	116 90%	38 86%	14 78%	52 84%	168 88%
その他	4	5	9	3	3	6	15

「その他」：留学、研究生、就職せずなど

平成23年度主な就職先（代表10社以内。50音順）

情報学部		大学院情報学研究科	
情報科学科	情報社会学科	情報科学系	情報社会系
NECアクセステクニカ㈱	藤枝市役所	KDDI㈱	NECアクセステクニカ㈱
キヤノン㈱	遠州鉄道㈱	京セラ㈱	キャロットソフトウェア㈱
㈱静岡銀行	㈱オービック	セイコーエプソン㈱	㈱システムリサーチ
スズキ㈱	㈱ディー・エヌ・エー	日本電気㈱	鈴与㈱
㈱デンソー	東海旅客鉄道㈱	日本電信電話㈱	スズキ㈱
㈱TOKAIコミュニケーションズ	東京エレクトロン㈱	㈱日立製作所	㈱トヨタコミュニケーションシステムズ
㈱ニューメディア総研	㈱日立システムズ	富士通㈱	㈱トヨタデジタルクルーズ
日立アイ・エヌ・エス・ソフトウェア㈱	浜松信用金庫	本田技研工業㈱	㈱日立ソリューションズ
㈱富士通アドバンストエンジニアリング	㈱ミクシィ	三菱電機㈱	㈱富士通ビー・エス・シー
㈱ユニバンス	郵便局㈱	㈱リコー	ヤマハモーターソリューションズ㈱

情報学部のウェブページをご覧ください。

情報学部では、保護者・受験生・社会人・一般・企業の皆様向けに学部のウェブページを公開しています。最新情報が掲載されていますので、どうぞご覧ください。

http://www.inf.shizuoka.ac.jp/

お問い合わせ

〒432-8011　浜松市中区城北3-5-1
静岡大学情報学部学務係
TEL：053-478-1501　FAX：053-478-1513
E-mail：pr-gakumu@inf.shizuoka.ac.jp
広報窓口：prcom@inf.shizuoka.ac.jp

平成24（2012）年度　行事予定表

2012年

4月 4日	入学式・保護者懇談会（新入生の保護者対象）
5日	ガイダンス（1・4年）
6日	ガイダンス（2・3年）
10日	前期授業開始
4月21・22日	新歓合宿（休暇村伊良湖）
7月28・29日	大学院入試
7月30日	前期試験期間（～8月3日）
8月 2日	TOEIC IPテスト（1年生）
8月 7日	夏季オープンキャンパス
8月 4日	夏季休業（～9月15日）
9月16日	集中講義（～9月30日）
10月 1日	後期授業開始
11月10・11日	静大祭・テクノフェスタ（浜松）
11月10日	保護者懇談会・個別面談
11月17・18日	静大祭（静岡）
12月22日	集中講義（～12月25日）
12月26日	冬季休業（～1月5日） シドニー大学短期集中コース

2013年

1月 7日	授業再開
2月 4日	後期試験期間（～2月8日）
3月21日	学位授与式（静岡）
3月22日	学位授与式・卒業祝賀会（浜松）
3月25日	春季休業（～3月31日）